

新潟大学 神経解剖学セミナー

社会的認知機能の生理学的理解： 非ヒト霊長類動物を用いた研究から

Physiological understanding of social cognitive function
using nonhuman primates

磯田 昌岐 先生

自然科学研究機構生理学研究所
認知行動発達機構研究部門

平成31年5月27日 16時30分～17時30分
医療人育成センター セミナー室2（2階）

ヒトやサルなどの霊長類は複雑な社会を形成する。たとえば自然状態下でのニホンザルの群れサイズは20頭以上におよび、そのなかには順位制や血縁性にもとづく社会構造が存在する。ヒト社会の複雑さはいうまでもない。こうした社会にうまく適応するには、他者の行動情報を参照し、それにもとづいて他者の意図や感情を類推したり、それをふまえて自己の行動を適切に制御したりする必要がある。いわゆるソーシャルニューロサイエンスは、そうした社会適応や対人相互交渉の基盤となる高次脳機能の神経メカニズムを明らかにすることをめざす学術領域である。従来の社会心理研究や発達心理研究が脳機能イメージング研究と融合し、社会的認知機能をつかさどる脳領域や神経ネットワークをヒトで非侵襲的に同定することが可能となった。また、これと並行して、社会的認知機能の神経メカニズムをサルを用いて生理学的に明らかにする研究もはじまっており、ヒトの脳機能イメージング研究を補完する、高い時空間解像度での神経活動計測や、機能介入にもとづく実証研究もおこなわれつつある。本講義では、サルを用いたソーシャルニューロサイエンス研究の現状を紹介しながら、当該領域が今後めざすべき方向性について議論したい。